

子どもの生活年齢と自立活動の指導における中心課題

○相川 久雄 (長崎県立長崎特別支援学校) 一木 薫 (福岡教育大学) 古川 勝也 (西九州大学)
 KEY WORDS: 自立活動 中心課題 生活年齢

I 目的

自立活動の指導は、個々の児童生徒の現在の実態を基点にしたボトムアップの指導を積み重ね、卒業までの在学期間を踏まえて指導を組み立てるトップダウンの視点が不十分でになりがちであり、個別への対応を前提としながらも、生活年齢を考慮して指導に取り組むことの重要性が指摘されている(宮尾, 2016)。

本研究では、A校における自立活動の指導目標を設定する過程で導き出された中心課題の分析を通して、小学部低学年・小学部中学年・小学部高学年・中学部のそれぞれの生活年齢期における導き出された中心課題の特徴について考察することを目的とした。

II 方法

(1)分析の対象

本研究では、A校に在籍する発達が初期段階にある児童生徒 32名(小学部 25名、中学部 7名)の平成 29 年度の自立活動の目標を設定する過程で導き出された中心課題を分析の対象とした。

(2)分析の手続き

中心課題の改善を図る上で必要な学習のまとまりを示すものを学習の要素とし、各学部段階の中心課題と学習の要素にどのような特徴があるかについて分析を行った。

III 結果と考察

分析の結果を Table1 に示した。

小学部低学年においては、「身体の動き」に関する<あぐら座位><椅子座位>のように座位について、「人間関係の形成」に関して<二項関係の形成>のような人との関わりについての学習の要素が取り扱われていた。小学部中学年から高学年では、「人間関係の形成」に関する<二～三項関係の形成>、

「身体の動き」に関する<座位からの立ち上がり><片手での物の操作><階段などの歩行>、「環境の把握」に関する<視覚><空間位置把握>、「コミュニケーション」に関する<人からの関わりに対して表情で表す><《表情もしくは身振り》で要求を伝える>などが学習の要素として扱われていた。中学部では、「人間関係の形成」に関する<三項関係の成立>、「環境の把握」に関する<注意の集中>や物の操作につなげるための<形の弁別><目と手の協応動作><利き側、両側の協調性を高める>、「身体の動き」に関する<椅子座位><提示された物を押す>、「コミュニケーション」に関する<人からの関わりに対して表情を表す>が取り上げられていた。

A校における自立活動の指導では、指導目標を設定する際に取り上げる中心課題の傾向として、「人間関係の形成」や「身体の動き」に関することを取り上げることが多いこと、学年進行に伴い「人間関係の形成」や「身体の動き」以外にも「環境の把握」や「コミュニケーション」を取り上げることが多いことが分かった。このことは、指導を担う教師に、肢体不自由児に対する自立活動の指導では、まず、座位や立位の保持などの「身体の動き」や、人や物のとの関わりといった「人間関係の形成」に関する指導を行い、その後、発展的に他の区分を取り上げる意識が働いていたことによるのではないかと考えられた。またその背景には、自立活動を中心に学ぶ児童生徒が多く在籍する本校において、平成 28 年度まで、自立活動の時間を基礎・応用・課題に分けて指導していたことや本校の個別の指導計画の書式が要因として考えられた。

本校は高等部が設置されて 2 年目を迎える。今後は、ボトムアップとトップダウンの双方の視点を持ち、生活年齢に応じた指導目標を設定できるよう、卒業までにどのような力を身につけさせるのか、学校として明らかにしていきたい。(AIKAWA Hisao, ICHIKI Kaoru, FURUKAWA Katsuya)

Table1 次年度の中心課題における区分・項目及び学習の要素 (学年は平成28年度)

	中心課題に含まれる 区分・項目・学習の要素	中心課題に含まれる 区分・項目・学習の要素	中心課題に含まれる 区分・項目・学習の要素	中心課題に含まれる 区分・項目・学習の要素	
小1	人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<椅子座位>	小3	人間(1)<三項関係の形成> 身体(1)<立位> 身体(5)<目的の物に触れる>	中1	
	人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<椅子座位、あぐら座位>		人間(1)<二項関係の形成> 心理(1)<気持ちの安定>		人間(1)<三項関係の形成> 環境(2)<注意の集中> 環境(5)<形の弁別>
	人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<つかまり立ち>		人間(1)<二項関係の形成> 身体(5)<階段などの歩行>		人間(1)<三項関係の形成> 身体(2)<人からの関わりに対して表情を表す>
	人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<椅子座位>		人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<つかまり立ち>	中2	
	人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<立位>		環境(4)<目と手の協応動作> 身体(5)<片手での物の操作> 身体(1)<座位からの立ち上がり>		人間(1)<三項関係の形成> 環境(2)<注意の集中> 環境(4)<目と手の協応動作>
	人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<つかまり立ち>		人間(1)<二項関係の形成> 人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<椅子座位>		人間(1)<三項関係の形成> 身体(4)<歩行>
小2	人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<つかまり立ち>	小4	人間(1)<二項関係の形成> 環境(1)<視覚> 身体(1)<椅子座位>	中3	
	人間(1)<椅子座位> コミュ(2)<身振りなどで要求を伝える>		人間(1)<三項関係の形成> 身体(5)<片手での物の操作> 身体(1)<椅子座位>		人間(1)<三項関係の形成> 身体(5)<提示された物を押す> コミュ(2)<人からの関わりに対して手などを動かして応える>
	環境(1)<人や物を注視する> 身体(1)<頭部体幹の保持>		人間(1)<三項関係の形成> 身体(4)<歩行>		人間(1)<三項関係の形成> 身体(5)<物を両手でしっかり持つ> 環境(4)<利き側、両側の協調性を高める>
	人間(1)<三項関係の形成> 身体(4)<歩行>		人間(1)<三項関係の形成> 環境(4)<目と手の協応動作> 身体(1)<椅子座位>	小6	
	コミュ(2)<指さしなどで要求を伝える>		人間(1)<二項関係の形成> 人間(1)<二項関係の形成> 環境(1)<視覚> 身体(1)<椅子座位>		人間(1)<三項関係の形成> 身体(4)<歩行> コミュ(2)<身振りなどで要求を伝える>
	人間(1)<二項関係の形成> 身体(1)<つかまり立ち>		環境(4)<目と手の協応動作> 身体(5)<片手での物の操作> 身体(1)<座位からの立ち上がり>		人間(1)<三項関係の形成> 身体(5)<目的の物に触れる> 身体(5)<歩行>